



**前川 雅志**  
議員  
(政風クラブ)

**問**

帯広厚生病院は、町民の命を守る上で大変重要な役割を担った病院だと理解している。しかし、新築移転を急ぐ理由や市町村や農協が、多額な負担をする理由が理解出来ない。以下何う。

(1) これまでの協議内容。  
(2) 負担額と期間。  
(3) 特別交付税の総額は増額されるか。

**町長** (1) 昨年5月に北海道厚生連から移転新築整備計画案について説明があり、町村会としては、町村外の医療機関の建設へ多額の費用負担をすることに對して、慎重に検討を進めてきた。10月には北海道厚生連に對し要望事項等を取りまとめ、その中で支援の方法は建設費補助ではなく、特別交付税措置のある運営費補助という提案を盛り込んだ。11月15日に北海道厚生連から、要望事項等への回答書が示され、特別交付税措置を活用した運営費補助を行うということで大筋の合意を見たところである。

(2) 負担額は、救命救急センターの

**問** 帯広厚生病院に對する負担額について

**答** 特別交付税措置を活用した運営費補助での支援を行う

収支不足額と救命救急センターに係る特別交付税措置の上限額はいずれか少ない額で、補助の期間は、事業開始となる平成30年度を始期としようとするもので、特別交付税の措置がなくなった時点で補助が終わる。

(3) 特別交付税自体が災害の発生状況などの特別な財政需要に左右されることや現行交付税総額における特別交付税の割合である6%が平成28年度以降引き下げられる予定であることなどから、十勝に配分される特別交付税の総額は極めて不透明な状況である。

**問** 幕別町に医大の誘致を現時点で誘致を進めていくことは困難である

**問**

(1) 十勝大学設置促進期成会で、大学誘致の議論が進まない要因。

(2) 震災以降、東北に医科大学を新設する動きがある。東北の新設と

併せて、道東に誘致する動きを、幕別町を中心に頑張ってみては。

**町長** (1) 首都圏を中心に学校法人を訪問するなどして、誘致活動を進めていたが、18歳以上人口の減少や大学間競争の激化など大学を取り巻く環境が厳しさを増す中、大学誘致の実現はかなわなかった。

(2) 十勝圏域の医師需要の現状に加え、医学部を設置する場合の設置基準に附属病院の設置や必要専任教員数などが定められており、その建設と運営には多額の費用と人材が必要であることから、現時点で誘致を進めていくことは困難である。

**問** 幕別町内にある二つの高校がどうあるべきと考えるか

**答** 高校教育のあり方を、オール幕別町で検討していきたい

**問** 幕別高校はサテライトの開催、進路決定100%

等、頑張りが高く評価するが、今後の児童・生徒数の推移を見ると厳しさは変わらない。今後、幕別町内にある二つの高校がどうあるべきと考えるか。

**教育長**

二つの高校それぞれが地域の理解と協力を得ながら、地域活性化のための高校づくり、ボランティアでの地域貢献、部活動の推進、人間力を高める教育、特別支援学校との共生教育の実践などをさらに充実させ、進学したい高校としての信頼を得ることが大切と考えており、引き続き財政面を含めたできる限りの支援に努めていきたい。



幕別高校の職業体験の様子